

## 国際協同組合年とは

国連は、2025 年を「国際協同組合年」(IYC=International Year of Co-operatives)とすると宣言しました。国際年は、世界に共通する重要なテーマについて、各国や世界全体が1年を通じて対策、とりくみを行うよう呼びかけています。

国際協同組合年もそのひとつで、2012年に続き、2回目となります。

## なぜ国連はIYCを設定したの

国連は、協同組合が事業や活動を通じて、女性や若者、高齢者、障がい者などあらゆる人々の参加を促し、貧困の根絶、雇用の創出、人々のつながりを強め、SDGsなど社会的課題の解決に貢献していると評価して、各国政府に協同組合の認知の向上と振興を要請しています。

## SDGsと協同組合

協同組合は、誰かに助けてもらうのではなく、一人ひとりの主体的な参加と協同によって、解決の道を探り、切り開いていける組織です。

SDGsの達成において協同組合が果たす役割に、国内外で期待が寄せられています。



協同組合のSDGsへの  
取り組みはこちらから

## ひろげよう協同を

日本協同組合連携機構(JCA)の

2025 国際協同組合年

特設ホームページ

<https://www.japan.coop/iyc2025/>



## International Year of Cooperatives

Cooperatives Build a Better World

医療福祉生協連は2025国際協同組合年に賛同しています

## 国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

 日本医療福祉生活協同組合連合会

# 日本の協同組合

日本には、農協・漁協・生協や、森林組合・信用金庫・労働金庫など様々な協同組合があり、また、生協の中にも購買生協・共済生協・医療福祉生協などがあります。

国内では、日本協同組合連携機構(JCA)に上記の協同組合のすべてが集い、地域・都道府県・全国の各段階で、異なる業界の協同組合間の連携を進め、協同組合の力を結集して、地域の課題の解消をめざしています。



JCA のホームページ



# 協同組合のアイデンティティ

1995年に英国マンチェスターで開催された国際協同組合同盟(ICA)の世界大会で「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」が採択されました。

「協同組合」とは何か、何を大切にしているのか、どのように運営されているのかなど、協同組合の指針となるものです。これに基づく世界中の協同組合の実践が、国際的な高い評価を得ています。



## 世界でも類を見ない 患者・利用者である住民と医療・福祉の専門職の協同 -医療福祉生協-

医療福祉生協の組合員は、地域住民であり、ある時は患者、利用者、ある時はボランティアをやっていたり、医師や看護師だったりもします。協同組合による医療・介護事業には、利用者と専門職による「ともにつくる」「共創」があります。そして、組合員である住民と専門職は「地域まるごと健康づくり」をすすめています。このような組織は日本にしかありません。



# 「協同組合の思想と実践」は ユネスコ無形文化遺産

2016年、「協同組合の思想と実践」がユネスコの「無形文化遺産」に登録されました。

決定に際してユネスコは、協同組合を「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生可能エネルギープロジェクトまで、さまざまな社会的問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」と評価しました。



## よりよい世界を築くために

「国際協同組合同年」は、みんながつながり、協同の輪をひろげ、実践するチャンス的一年です。

SDGsなどのとりくみをひろげ、協同組合のことを広く知ってもらい、共感や信頼につなげ、事業や活動に参加する人をふやしましょう。

組合員がふえることで、社会を変えていく可能性を秘めています。協同をひろげて、よりよい世界を築きましょう。

医療福祉生協連では、IYC2025を協同組合間の連携・協力を強め、協同組合の価値を広げる機会ととらえ、「学ぶ」「実践する」「発信する」を中心に、「2025 国際協同組合同年 ～学ぼう つながろう ひろげよう～」をテーマとしたアクションプランにとりくみます。

# 日本医療福祉生活協同組合連合会



ホームページ